龍灯

第２３号

発行所　大阪市史跡　龍溪禅師墓所
霊亀山　九島禅院
〒550 大阪市西区本田３丁目4-18
☎０６－５８３－２７２５
発行人　住職　奥田啓知（智證）

大阪にオリンピックを！　九条に中華街を！　二十一世紀まであと三年！

ボランティアは菩薩行

深刻な重油流出被害見ておれぬ

連日、島根県隠岐島沖で沈没したロシア船籍タンカー「ナホトカ」の重油流出事故による海洋汚染が報道されています。

漁協や地元住民をはじめ、自衛隊、海上保安庁も回収作業にあたっています。また、高校球児たちをはじめ全国から大勢のボランティアも応援にかけつけヒシャクやバケツで懸命に重油をかい出していますが、被害はさらに富山、新潟へ拡大する様相を見せています。

タンカー船首部分が漂着した福井県三国町では、重油対策ボランティア本部の設置以来、九日間で、北海道から沖縄まで全国から訪れたボランティアは約二万二千人を数えるとのことです。

ボランティアとは広辞苑によれば「志願者。篤志家。奉仕者自ら進んで社会事業に参加する人」を意味しますが、おそらくはキリスト教の博愛精神から発したものでしょう。仏教では慈悲と呼び、慈とはいつくしみであり、他人に楽を与えてることで、悲とは、哀れみであり、不幸な人とともに悲しみ哀れんで苦しみを取り除いてあげることです。そして、慈悲の気持ちで行う行為を「菩薩行（ぼさつぎょう）」と呼び大乗仏教では重要な仏道修行とされています。

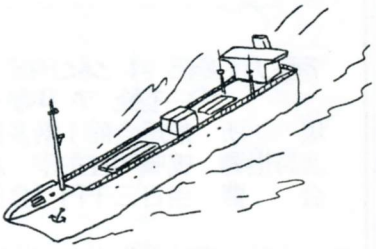
菩薩とは、もともとお釈迦さまの前世の呼び名ですが、行基菩薩、日蓮大菩薩をはじめ、観音菩薩、文殊菩薩など、大いなる誓願をたて、菩提（さとり）を求め修行するとともに、人々を悟りに到達させて救おう（上求菩提・下化衆生）とつとめている者をさします。私ども黄檗宗でも、二度の大飢饉の救済に立ち上がり、艱難辛苦『大蔵経』を刊行した鉄眼禅師も、救世の大士とよばれています。

ボランティアを菩薩行と解して、菩薩行にとって重要なことは、こだわらないことです。俺がお前に恵んでいるやるんだゾだからお前は俺に感謝しなければならない。そんな気持ちがあっては菩薩行になりません。また、『観音経』には、観音さまは極楽浄土のほとけさまで、三十三の変化身（へんげしん）をとって私たちの娑婆世界に「遊び」に来ておられるーと書かれています。「遊び」という意味は、ゆったりと、楽しみながら修行しておられるーその姿を遊びと表現しているのです。

ボランティアも、自分の健康を考えて参加したいものです。命をおとしては何のためのボランティアか分かりません。

また、先の神戸大震災のボランティア活動で見られたように一生懸命するあまり、ボランティアをぬけた者に対して恨みをもち、はては暴力沙汰になっては何をか言わんやでしょう。

大震災を教訓に定着したボランティア活動ですが、肩肘はらず、自然な形で参加したいものです。最後に、ボランティアに参加され、亡くなられた三名の方のご冥福をお祈りします。



たまごっち大流行

人とのふれあいこそ大事

昨今、『たまごっち』なるゲーム機が社会現象と騒ぐほどの大流行だそうで、中学一年生の次女からの矢の催促で月参りの道中、玩具の量販店を探す毎日です。

携帯液晶バーチャルペットといわれる手のひらサイズのゲーム機ですが、ＯＬをはじめ女子中高生を中心に大流行しています。

発売元はセガと合併することで話題になっている玩具メーカーのバンダイで、定価千九百八十円。時計をセットすると五分後には液晶画面上の卵がかえり、仮想ペット『たまごっち』が誕生。ボタン操作でエサをやったり、しつけをしたり、ふんを掃除したりして育てる、実際の飼育をゲーム感覚で育てるものです。

このゲーム、従来の育成ゲームとちがい、ほっておくとピーと電子音が鳴って、「おなかすいた」とか「かまって」とか、わがままな要求をゲーム機側から送ってきます。ほっておくと、『たまごっち』なる動物？が死んでしまい元の卵に戻ってしまうのです

次女の友達が学校に持ってきており、授業中にピーとの電子音が鳴り、先生に没収されたそうで、没収した先生は液晶画面の『たまごっち』が卵になってしまったので、あわてて本人より操作方法を聞き、先生自らが育てているのだそうです。

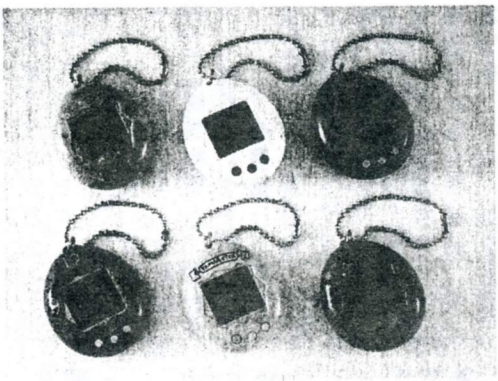
育て方がうまければ、寿命も延び（平均八日、最高では二十九日とのこと）姿も『うさぎっち』『いぬっち』『おやじっち』と多様に変化するのだそうで、死んじゃうと、お葬式をする人もいるのだそうで、その愛情の掛け方は異常なほどだそうです。

次女の『たまごっち』催促の声に、長女は『そんな玩具より、私の飼っているショウジョウバエのほうが、ずっと可愛い』と言い、小柄も心配半分、興味半分のところです

新聞によると、フランスでは、コンピューターのインターネットで仮想墓参が行なわれているのだそうです。

コンピューターの画面上に墓地が映し出され、墓参したい時には、キー操作で画面上の墓地より自分のご先祖の墓碑を呼び出し拝むのだそうです。キー操作によって、故人の写真やら、肉声が聞くことができ、思い出に浸ることが出来るのだそうです。

時代もここまで進んできたのかという戸惑いと、なにか割り切れない気持ちがするのは私だけでしょうか。コミュニケーションとは、人と人とのふれあいであり、決して仮想体験するものではないと思います。



漢詩の会ご案内

毎月第４火曜日
午後７時～９時

場　所　龍燈会館１階多目的ホール
漢詩指導　鳴鳴吟社主宰　森崎蘭外先生
会　費　当日三千円（会員二千円）

※少人数で漢詩創作までご指導して頂けます

円通宗統禅会ご案内

毎月１８日（観音さんのご命日）
午後６時半～８時半

場　所　当院本堂と坐禅堂
坐禅指導　黄檗山萬松院　奥田仁芳老師
提　唱　龍溪禅師『宗統録』

※坐禅しましょう！法話だけでも如何ですか！

大阪にオリンピックを！　九条に中華街を！　二十一世紀まであと三年！

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百三十年です！

檀信徒の皆さまへ

○弘忠和尚三回忌厳修

さる一月二十五日（土）正午より、先代住職弘忠和尚の三回忌法要を執り行いました当日は、教区支院長さまや法類寺院かた十名のご僧侶方親戚衆、檀家総代さまのご出席をえて、和やかに先代和尚を偲ぶ事が出来ました。

なんでも質問箱

（問い）祀り手のいなくなった仏さまはどうすればよいのか。

（答え）最近は子供が少なく、一人っ子同士の結婚で、どちらかの名跡を継ぐ人がいないお家が多くなってきました。昔の家督相続とか「家」意識が薄れ、個人中心の考え方になってきましたが将来、自分自身または、実家の仏さまの供養をどうするかは大きな問題といえるでしょう。昔は永代経の回向料として、田畑をお寺に寄進して、その年貢米でご回向をお願いしたものですが、最近では永代供養冥加金をお寺に寄進してその利息を代々の住職が布施として受け取り、三十三回忌までは年回法要を続けてくれます。大阪では一心寺のように、お骨仏にして供養をしてくれるお寺もあります。

当院では、各家の一霊一霊個別の年回法要までは手がまわりませんが、龍燈会館二階の慈光堂で、永代祀堂位牌をお造りしてお祀りさせて頂いております住職が朝課の折、永代祀堂各家先祖代々の仏さまの回向をし、春彼岸法要、盆の施餓鬼法要には出仕寺院数ケ寺のお寺さま方とご回向させていただいております。詳しくは当院までお問い合わせください。

○蓮を育ててみませんか

好評を得ております当院栽培の蓮、数種類植えておりますが、毎年春先に株分けします。ご希望の方に蓮の株をさしあげます。栽培はいたって簡単です。自宅で栽培した蓮の花をお盆にご先祖さまに供えませんか！彼岸法要のときにでも、お分けしようと考えています。

○常休寺復興の槌音

震災で被災した常休寺（伊丹市中野）もようやく復興工事が始まりました。昨年末十二月十九日に本堂建築の地鎮祭が挙行されました。本年一月十七日には、大震災の三回忌法要にあわせ、身の丈七メートルもの大観音像が建立され、開眼法要も行なわれました。

当院の寄進によって復旧された山門をはじめ、鐘撞堂も再建され、いよいよ本堂が建築されます。工事は中山工務店が担当、来年の春には、七間六間の大本堂が完成することとなります。

○バザー用品募集します

身体障害者の作業所『旭希望の里』では、毎月千林商店街でバザーを催し、活動資金の足しにしています。お檀家さんの子息が同所に入所されており、葬儀などの粗供養を何度か提供してきました。ご家庭でねむっている不用品など提供してくれませんか。月参りの折や、直接お寺まで届けていただければ助かります

○小咄の会はじめます

今般、偶数月の第二木曜日午後七時より『一蝶会』という小話研究会が、当院を会場に開かれます。弁天町市民講座での小話の会（小生も受講していました）が終了しましたので、同好の士が集まり、落語家桂一蝶師匠を顧問にお願いし、会を続けていくこととなり、会場を提供しました

頭の体操、話術の練成に小咄を自作自演してみませんか一酒一品を持参し、奮ってお越しください。入門歓迎です

奉納抄

南無観世音菩薩のぼり奉納
（平成九年一月）

土肥孝彌・鴻上久江・浅香弘一・藤川忠計・多賀栄美子・松田勝・三好清隆一柳胤雄・三阪忠秋・小柳馨・播田弘平松沙記、良麻・岡田シゲノ・和田高明・多賀澄子・山口時夫・木村仁志（締め切りとさせていただきます。一年間境内に掲げさせて頂きます）

編集後記

▼一月は逝くと呼べるほど、葬儀が重なり多忙を極めました。某お檀家さんの通夜のことです。ご回向を済ませ、控室に戻ると、故人の娘が二人やって来ました。

▼『こんな親身になって温かいお言葉を頂いたお通夜は初めてです。本当に感激しました。』とのことでした。

▼小衲自身もはじめての経験でお尻がこそばくなることしきりでした。

▼第二面のゲームの如く、人と人との親身なふれあいの少なくなった昨今、故人の思い出をエピソードに折り込みお話したことが、心を打ったようでした。

▼人は寂しいのです。人とのふれあいに傷ついた人間は、殺伐とした都会砂漠で、優しさをゲームにもとめるのではないでしょうか。恐れず、人とのふれあいを持ってください。誰にでもできる優しさ（布施）は、言施（優しい言葉をかける）顔施（微笑む）です。彼岸を契機に日々実行しませんか。

● 辞世の句

当院檀徒鈴木善宗（よしむね）さんが、昨年末に逝去されました。享年９６歳の大往生でした。戦前古川町に住まいされ、食品会社勤務の後、戦後早々梅田地下街に喫茶店を経営、その後『ヨネヤ』という串カツ屋を、八十八歳で引退されるまで現役で頑張ってこられました。

氏は弊師弘忠和尚とじっ懇で、当家は先々代榮忠和尚の結婚を世話されるなど、九島院とは、切っても切れないお方でした。小衲にとっても大恩のある方で、小衲が高校教師に転勤早々、職場に馴染まず悩んでいたおり、弊師と訪ねた難波の地下街の店先でやさしい言葉をかけて頂いたこと、生涯忘れえぬ思い出です。また、始終九島院を気遣われ、誰よりも当院を愛されていたお檀家さんのひとりでした。

氏は辞世の句を遺しておられました。

うつし代（現世）でのつとめを成しおえて長生きし大勢の縁ある方々の往生を見送ったけれど、寒風吹く秋空のもと、今思い残すことなく、私は冥土に旅立ちます－そんな気持ちが読み取れる句でした。葬儀での引導法式に先立ち、氏の辞世の句を詠ませていただきました。

禅家の家風として、正月には遺偈（漢詩の辞世の句）を作ることとなっています。禅僧の良寛和尚の遺偈は、かたみとて何かのこさん春は花、山ほととぎす秋はもみじぱ－（かたみとて、いったい、何が残せようか。思えば、人生、仮の世であった。仮に生きて仮に死んでいくのだ。かたみなど何も残さなくとも、春には桜、山にはほととぎす、そして秋には紅葉と美しい自然がこうしてある。うれしいことではないか）－です。

誠に、善宗さんは、素晴らしき禅僧そのものでした。

うつし代の
業なしおえて
往あれど
復あき旅に
我は出づなり

ご案内

山門会（春彼岸法要）

３月２３日（日）
午後１時半より

ご先祖供養です。宗旨に関係はありません。ご回向のお申し込みをお願いします

法話・住職

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百三十年です！